

平成16年11月18日
中国電力株式会社

**中国電力グループへのモバイルIP電話
・TVミーティングシステムの導入について
～ブロードバンドオフィスソリューションの展開開始～**

当社は、「いつでも、どこでも、オフィス」を実現するため固定通信とモバイル通信を融合し(FMC:Fixed Mobile Convergence)、「音声」・「映像」・「モバイル」をキーワードとするブロードバンドオフィスソリューションを展開します。このブロードバンドオフィスソリューションの展開は、株式会社エネルギア・コミュニケーションズ(本社:広島市, 取締役社長:鈴木知己, 以下エネルギアコム)のサービス利用を中核とした、グループIT基盤整備の一環として位置付けて実施するものです。

その第一歩として、当社は、平成16年10月にTVミーティングシステムを導入し、平成17年4月からモバイルIP電話を導入します。

なお、モバイルIP電話・TVミーティングシステムのネットワーク構築等を含めたサービスについてはエネルギアコム、公衆IP(050)電話との接続についてはエネルギアコムを通じフュージョン・コミュニケーションズ株式会社(本社:東京都千代田区, 代表取締役社長:角田忠久)にご協力を頂きました。

1. モバイルIP電話の導入(平成17年4月から)

当社は、構内交換機やPHS端末機等により構築しているモバイル環境をそのまま活用し、公衆電話と内線電話にIP電話を導入します。

(1) モバイルIP電話導入の特徴

[1] デュアルVoIPゲートウェイ装置の採用

既存の構内交換機に付加して音声をVoIP化し、公衆IP電話と内線IP電話導入を1台で実現するデュアルVoIPゲートウェイ装置を採用しました。これにより、既存の構内交換機が活用でき、現在の自営PHSで実現しているモバイル環境のままIP電話を導入します。

[2] 自由度・信頼度の高い内線IP電話方式の採用

当社の内線電話は、災害時等において高い信頼度が要求されます。このため、内線IP電話は、一般的に使用される通信事業者のサービスを利用せず、デュアルVoIPゲートウェイ装置間で直接通話する方式を採用し、通信事業者の電話サービス障害の影響を受けない仕組みとすることにより、自由度・信頼度を高めています。

(2) 今後の展開

現在は既存の自営PHSによりモバイル環境を実現していますが、今後は無線LAN電話機能(*1)、携帯電話機能、自営PHS機能(*2)を一台に実装したIP携帯電話端末を早期に開発し、導入していきます。

また、当社グループ企業や協力会社との内線通話への導入も並行して検討しています。

*1 無線LAN電話機能

無線LAN上に音声(VoIP)を流すことにより電話を実現する機能。

*2 自営PHS機能

企業の交換機配下で使用するPHS機能。自営PHSは技術が完成しており、無線LAN電話と比べて、システム構築が容易で通話品質が安定しているという特長がある。

2. TVミーティングシステムの導入(平成16年10月から)

TVミーティングシステムは、エネルギーアコムの子会社のTVミーティングサービスを導入したもので、複数の事業所の自席などで手軽に会議開催を可能とするものです。また、会議資料の共有も簡単にでき、会議をスムーズに行なうことができます。

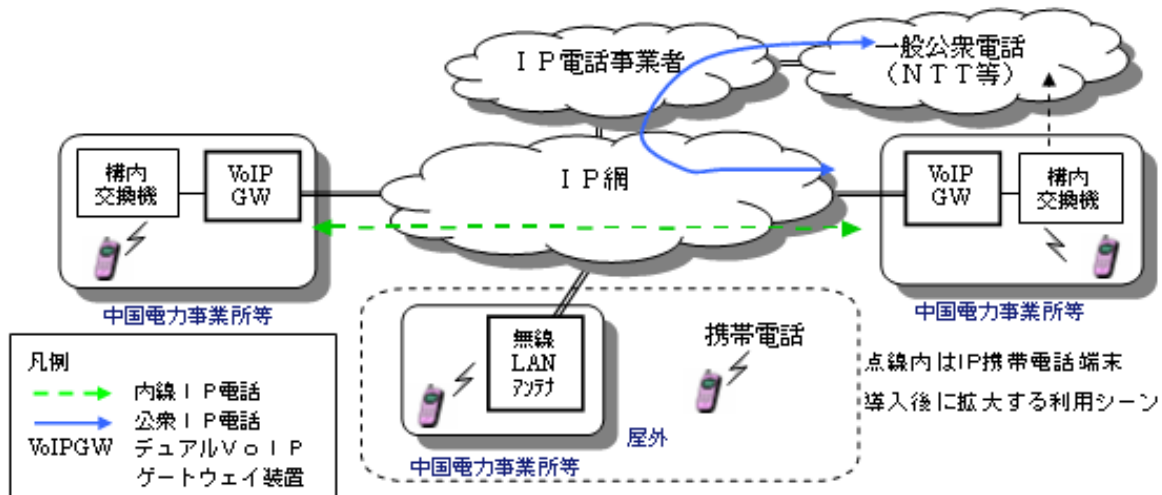
今後は、構外からの会議参加を可能とするIP携帯電話端末とTVミーティングシステムとの接続や、映像監視、映像配信、遠隔教育、遠隔医療等多様なニーズへの対応等について検討していきます。

以上

[【参考1】モバイルIP電話導入イメージ](#)

[【参考2】TVミーティングシステム導入イメージ](#)

【参考1】モバイルIP電話導入イメージ



【参考2】TVミーティングシステム導入イメージ

